



# 第 304 回つくば分子生命科学セミナー

TSUKUBA MOLECULAR LIFE SCIENCE SEMINAR

演題：細胞内ウイルスセンサーによる抗ウイルス自然免疫誘導の分子機構

演者： 米山 光俊 先生  
京都大学ウイルス研究所・准教授／JST さきがけ

日時：2010 年 1 月 25 日（月） 16:00-17:30

会場：医学学系棟 3 階 4B482

要旨：

ウイルス感染に対する生体防御は、高度に制御された免疫システムによってなされている。なかでも自然免疫系は、感染初期の速やかなウイルス排除に重要な役割を担っている。ウイルスに感染した細胞は、ウイルス由来の核酸成分を非自己として認識することで、I 型インターフェロン（IFN）などのサイトカイン遺伝子を誘導し自然免疫系を発動する。我々はこれまでに、細胞質内で機能するウイルス RNA センサーである **Retinoic acid inducible gene (RIG)-I-like receptor (RLR)** を同定し、それらによるウイルス由来非自己 RNA の認識様式およびシグナル伝達機構について解析してきた。本セミナーでは、これまでに得られた結果について概説すると共に、ウイルス感染に応答した RLR の細胞内局在変化についての最近の知見を紹介し、RLR によるウイルス検知の分子メカニズムについて討論したい。

[参考文献]

- Yoneyama, M. et al. *Nature Immunol.*, 5, 730-737, 2004.  
Yoneyama, M. et al. *J. Immunol.*, 174, 2851-2858, 2005.  
Yoneyama, M. et al. *J. Biol. Chem.*, 282, 15315-1318, 2007  
Yoneyama, M. & Fujita, T., *Immunity*, 29, 178-181, 2008

本セミナーは生命システム医学専攻「医学セミナー」を兼ねており、単位の一環となります  
連絡先： 人間総合科学研究科生命システム医学専攻 永田恭介（内線 3233）

【筑波分子医学協会（TSMM）主催】 HP <http://www.md.tsukuba.ac.jp/public/tsmm/>